



# 六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.92  
六甲山麓・弓削牧場の循環型農業/弓削 忠生  
2010年11月発行



弓削牧場のチーズハウス・ヤルゴイ

## 第92回テーマ： 六甲山麓・弓削牧場の循環型農業

### 講演内容

- 弓削牧場が拓く都市型農業
- 都市には耕作放棄地がいっぱい
- 六甲山を活かす「市民農園」



講師：弓削 忠生さん

(プロフィール)

1945(昭和20)年生まれ、65歳、神戸市出身。1965年兵庫県立畜産講習所(現・農業大学校)卒業。酪農家・乳製品加工販売・レストラン経営・酪農教育ファームと多彩な活躍で注目を集めている。

実施日：平成22年11月20日(土)  
午後1時～3時45分  
場 所：六甲山自然保護センター

### 自然保護センターは冬季閉館前の賑わい

ドライブウェイから眺める六甲山は紅葉が鮮やかになっていました。晴れ渡った記念碑台は14℃でひんやりとし、11月末で閉館する直前の記念碑台を訪れるハイキング客が目立ちました。定例の環境整備活動には8名が参加し、散策路の植生調査とアセビ実験区の環境調査に分かれて活動しました。アセビを伐採した実験区画が明るい雑木林に一変したのが印象的でした。

### 「論より食！」を体現する弓削さん

弓削さんは牧場を経営する傍、大学講師や県の地域ビジョン委員など多くの公的活動もされています。都市型農業や循環型社会について、弓削牧場での実践を踏まえた意見は多くの共感を集めています。多岐にわたる事業の実践は驚きですが、その背景には、「農業で生きていく、生産者と消費者をつなぐ、そして日本の農業を守り抜く」という農業者の哲学がうかがわれます。

農業産物の貿易自由化という大きな危機に直面していますが、「日本の農業は滅ぶ」と危惧されて打開策を試みている、国際感覚豊かな弓削さんの提言が切実になっています。

### 市街地の酪農経営はパイオニアワーク

講演の前半は息子さんが作成されたパワーポイントで、住宅地の中にある弓削牧場の風景や、生産・加工・販売・サービスなど多彩な事業活動を映写されました。

冒頭で、昭和18年に箕谷山中の耕作放棄地に牧場を創設され、通勤酪農を始めたお父さんの卓見や斬新な試み、身体を壊す苦労なども紹介されました。1960年代半ばに大学進学をやめて農業を継承、アメリカに1年農業留学して当時の最新技術、アメリカの農業を勉強されました。帰国すると、牧場の周辺は住宅地に激変していました。

続いて、弓削牧場の都市型農業の取り組みを具体例で説明



60頭の乳牛

されました。24時間放牧と自動搾乳ロボット、自家製堆肥と園芸部門、ハーブ栽培と販売、チーズ工房とチーズハウス「ヤルゴイ」のオリジナルメニュー、森林植物園内の支店経営、ハチミツ生産やホエイソープ(乳精石鹸)などです。さらに、結婚式、カルチャー教室、ライブイベントの場を提供されています。活動の広がりにも感嘆しきりでした。

後半は都市型農業の課題や提言を語られ、活発な質疑応答を重ねながら、農業の将来への不安と打開策について、熱い思いを開陳されました。六甲発の高原野菜の供給基地をつくる提案をされるなど、前向きに知恵を出す大切さを訴えられました。六甲山麓での独創的な酪農経営に目を奪われがちでしたが、日本の農業のあり方や次代を担う人たちに何を残すかを真摯に考え実践されていることに感銘しました。

### 循環型農業を通して環境を考えたい

もっと多くの人に聞いてもらいたいと痛感。弓削さんと弓削牧場の皆さんが拓く循環型社会の道しるべに啓発を受けました。六甲山での生産活動にも注目したいと思います。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

### 参加の感想 吉村 成幸 さん

今日のテーマは、身近に感じられる内容でなく、ほとんど知らなかった事でした。農林業の厳しい現状は一般的によく言われていますが、この講演で将来を見据えた具体的な打開策をうかがい、一人間として何かなまけている様な生活をしているのではないかと考えさせられました。豊富な経験から色々危機的な事を識られており、それを皆様に理解してほしいという弓削さんのメッセージがよく伝わりました。

またこの様な社会問題に関する講演をお願いします。



主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

セブンイレブン記念財団、大阪コミュニティファンド(東洋ゴムグループ環境保護基金)、子どもゆめ基金、コベルコ自然環境保全基金、コープこうべ環境保護基金